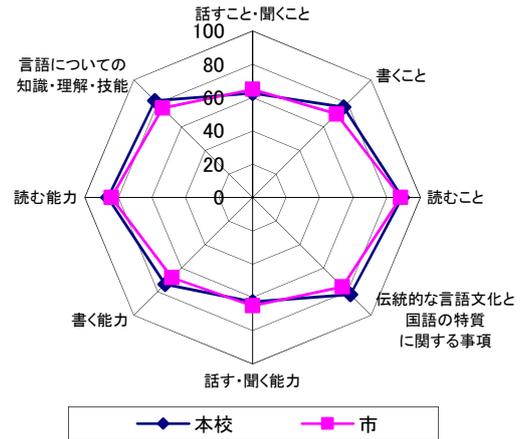


宇都宮市立西原小学校 第6学年【国語】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	話すこと・聞くこと	62.7	65.0	62.9
	書くこと	76.9	70.9	71.3
	読むこと	89.2	88.4	87.2
	伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	82.4	75.8	75.3
観点別	話す・聞く能力	62.7	65.0	62.9
	書く能力	73.6	68.0	68.0
	読む能力	86.2	84.2	82.8
	言語についての知識・理解・技能	82.3	75.9	75.6

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



★指導の工夫と改善

領域	本年度の状況	今後の指導の重点
話すこと・聞くこと	<ul style="list-style-type: none"> ○話し手の意図を考えながら、話し合いの内容を聞く問題はよくできていた。 ●司会者の役割を理解して、目的に沿って計画的に話し合おうとする問題に課題があった。 	<ul style="list-style-type: none"> ○国語科の学習のみならず、各教科等の学習においても話し合いの場を設定し、協議及び討論の進め方に慣れさせていく。互いの立場や意図をはっきりさせながら、計画的に話し合いを進める能力や態度を育てていく。
書くこと	<ul style="list-style-type: none"> ○指定された長さで文章を書くことや自分の意見とその理由を区別して書くことはよくできていた。 ●資料の内容を読み取って、文章に書き表す内容を理解することや文章に適切に表すことに課題があった。 	<ul style="list-style-type: none"> ○国語科の学習はもちろん、他教科の学習でも資料から分かることを文章でまとめる活動を積極的に取り入れる。その際、読み取った内容に対して自分はどうかを意識させ、よく書けている児童の文章を紹介するなどして書く能力の育成を図る。
読むこと	<ul style="list-style-type: none"> ○説明文の内容を的確に読み取ることはよくできていた。 ●物語の登場人物の心情を読み取ることや文章の表現の工夫を読み取ることに課題が見られた。 	<ul style="list-style-type: none"> ○物語を読む際、登場人物の相互関係から人物像やその役割を捉え、そのことによって、内面にある深い心情も合わせて捉えられるよう指導していく。登場人物の心情は、行動や会話、情景などを通して表現されている場合もあるので、想像を豊かにしながら読むことを大切にしていく。
伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	<ul style="list-style-type: none"> ○5・6年生の配当漢字を読むことと文の構成(述語)についてはよくできていた。 ●5学年の配当漢字を書くことと国語辞典の使い方について課題が見られた。 	<ul style="list-style-type: none"> ○今後も朝の学習や宿題などを利用して習熟を図っていく。 ○国語辞典や漢字辞典を使う機会を積極的に設けるとともに、ことばや漢字を適切に使えるように、意味調べや例文づくりを継続的に行っていく。

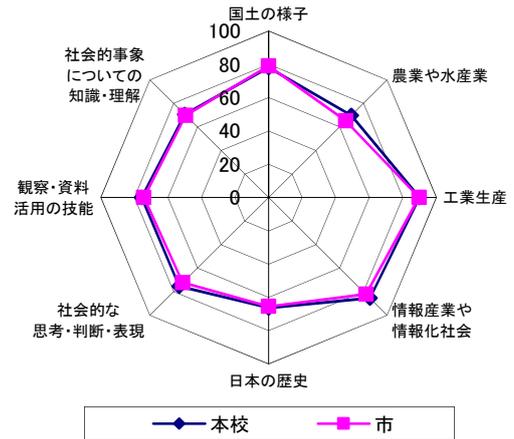
○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

宇都宮市立西原小学校 第6学年【社会】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	国土の様子	78.2	79.1	74.9
	農業や水産業	69.8	65.1	63.7
	工業生産	90.0	89.7	86.2
	情報産業や情報化社会	85.5	82.2	73.1
	日本の歴史	66.3	65.4	65.6
観点別	社会的な思考・判断・表現	75.3	72.2	69.0
	観察・資料活用の技能	75.7	74.3	69.2
	社会的現象についての知識・理解	70.7	69.9	69.3

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

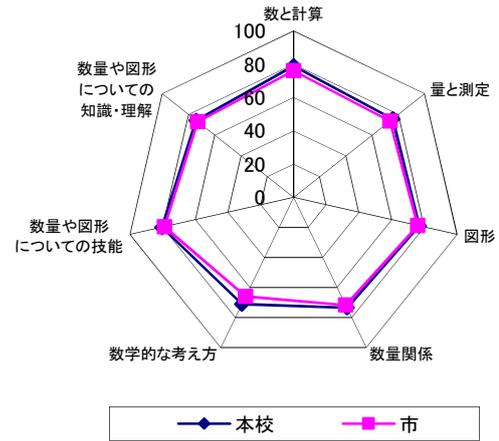
領域	本年度の状況	今後の指導の重点
国土の様子	○日本周辺の主な国名や位置についての問題や、日本の国土の様子についての問題の正答率は、市の平均に比べて高かった。 ●国土の特徴から国民一人ひとりの防災意識を高めることを問う問題の正答率は、市の平均に比べて低かった。	・児童が地球儀や地図帳を利用して調べたり確認したりしたことを、白地図に書き入れる活動を行う。 ・災害関連の資料を調べ、災害に対して日頃からの準備や意識が大切であることを理解させる。
農業や水産業	○複数の資料を読み取って日本の米作りの問題点について答えたり、国産と外国産の農産物の価格が違う理由を考えたりする問題の正答率は、市の平均に比べて高かった。 ●米作りの作業と季節の関係についての問題の正答率は、市の平均をやや下回った。	・複数の資料を読み取る活動を継続していく。また、実際に広告やパンフレットなどを用いて調べ学習を行い、日常生活と結び付けて考える活動を行う。
工業生産	○工業製品の種類についての問題や、優れた製品を生産するための工夫や努力についての問題の正答率は、市の平均にくらべてほぼ同じであった。	・日本の工業について、それぞれの工業地帯・地域の特徴を表にまとめたり、テーマを決めて調べ学習に取り組む活動を通して、知識の定着を図っていく。
情報産業や情報化社会	○マスメディアの種類についての問題や、情報ネットワークの利便性についての問題の正答率は、市の平均に比べて高かった。	・情報の利用の仕方については、自分にとって身近な問題であるという意識を高め、著作権や個人情報の保護などと関連付けて学習できるように指導していく。
日本の歴史	○大仏造営を命じた聖武天皇の願いについての問題や、不平等条約改正についての問題の正答率は、市の平均に比べて高かった。 ●歴史分野全体を通した正答率は市の平均とほぼ同じであるが、同じ時代に関する問題でも正答率に差が見られ、内容の理解にばらつきが見られる。	・各時代の内容理解について習熟を図るために、単元ごとにその時代や人物・文化等の特徴を捉えて、まとめる学習を行う。

宇都宮市立西原小学校 第6学年【算数】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	数と計算	79.0	76.2	72.9
	量と測定	75.7	73.6	70.6
	図形	76.9	76.0	72.1
	数量関係	73.5	71.8	66.9
観点別	数学的な考え方	71.0	65.9	58.0
	数量や図形についての技能	80.4	78.9	76.2
	数量や図形についての知識・理解	74.4	73.1	70.4

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

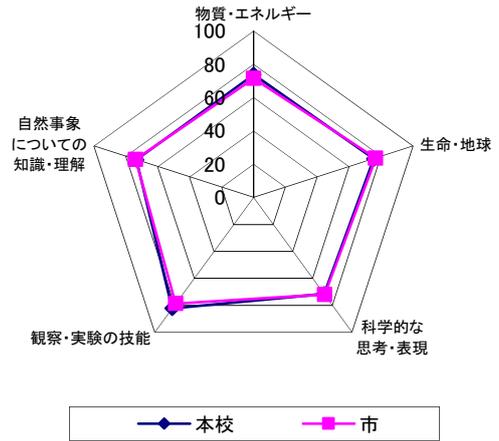
領域	本年度の状況	今後の指導の重点
数と計算	<p>平均正答率は、他の領域より高い。</p> <p>○小数の除法の文章問題に合った図や式を選ぶことについて、市の正答率よりも高かった。図や数直線を使って問題場面を整理することを丁寧に行ってきた成果であると考え。</p> <p>●通分をして計算する問題では、市の正答率よりも低く、課題が見られた。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 基本的な計算の定着に向け、朝の学習や家庭学習で繰り返し練習を継続していく。また、課題があった分数の計算については、計算の仕方が理解できているかを確認し、確実に定着できるようにする。 今後も基礎・基本の徹底と同時に発展的な問題を解決する力も身に付けていけるよう、習熟度別学習を生かして個に応じた指導の充実を図っていく。
量と測定	<p>○2つの速さを比較し、その判断の理由を説明するなどの数学的な考え方の問題は、市の正答率よりも高い。本校では、自分の考えをノートにまとめる時間を十分に取るようにしてきた成果であると考え。</p> <p>●単位当たりの大きさについての問題の中で、1㎡あたり的人数を求める式を選ぶ問題に課題があった。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 全国学力調査の問題でも取り上げられている「単位当たりの量」については、図を活用して視覚的に場面を捉えさせ、場面の理解と数量の関係の把握に重点をおいて指導していく。 速さの学習では、単位量あたりの大きさの1つとして指導するようにし、数直線を用いて具体的に理解させていく。また、日常場面との結びつきも深いものなので、実生活への活用を意識させながら理解を図っていけるよう、様々な例を取り上げていく。
図形	<p>○正六角形の作図方法から正三角形や正六角形の内角の大きさを求める活用問題は、市の正答率より高かった。</p> <p>●線対称の図形についての問題は、他の図形の問題より正答率はやや低かった。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 様々な図形を作図する際には、それぞれの図形の特徴を確認しながらそれらの図形を描いていくようにして指導していく。 線対称や点対称などの図形については、中学校における図形の移動の学習へと結びついていくので、小学校の段階では具体的な操作活動を十分に取り入れて、対称についての実感的な理解を図っていく。
数量関係	<p>○反比例の表や帯グラフをよみ取って、あてはまる数を求める問題は、市の正答率より高かった。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 比例・反比例などの伴って変わる2つの数量については、表を用いて数量の対応や変わり方の特徴を調べる活動を重視し、関数的な見方・考え方を深められるように指導していく。 統計グラフの学習では、グラフを視覚的に捉えることに加え、数値をよみ取ることを繰り返し行っていくことで、確実に統計グラフのよみ取りができるように指導していく。

宇都宮市立西原小学校 第6学年【理科】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	物質・エネルギー	73.8	71.6	67.4
	生命・地球	75.5	76.6	75.5
観点別	科学的な思考・表現	71.6	72.1	68.8
	観察・実験の技能	82.3	78.7	76.3
	自然事象についての知識・理解	73.4	73.9	71.5

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

領域	本年度の状況	今後の指導の重点
物質・エネルギー	<p>○「物の燃え方」や「水よう液の性質」の問題では、内容についての理解力が高く、すべての設問の正答率が、市や全国の平均に比べて高かった。</p> <p>●「物のとけ方」や「電流のはたらき」の問題では、科学的な思考を必要とする問題の正答率が市よりも低く、課題が見られた。</p>	<p>・内容の理解を図るため、課題をもたせた上で観察や実験を行い、結果を記録するだけでなく、自分の考えを文章や絵、図などを用いて記述する活動を積極的に取り入れていく。</p> <p>・科学的な思考力を高めるために考えを交流し、友達の考えを取り入れて自分の意見にできるよう表現方法の仕方を学んでいく。</p>
生命・地球	<p>○「動物のからだのつくりとはたらき」の問題の正答率は市や全国の平均に比べて高かった。</p> <p>●「生物とかんきょう」や「月と太陽」の科学的な思考の問題では、市の正答率より低く、考えたことを正しく表現する力に課題が見られた。</p>	<p>・教科書の内容を学習した上で、児童の興味関心を高めるためインターネットを利用した授業や考えをレポートにまとめる活動に取り組ませていく。</p> <p>・自然事象に関心をもてるよう、図書室やデジタル教材を有効に活用して、学びの定着を図っていく。</p>

宇都宮市立西原小学校

学力向上に向けた学校全体での取組

★学校全体で、重点を置いて取り組んでいること

重点的な取組	取組の具体的な内容	取組に関わる調査結果
・基礎・基本の確実な定着と一人一人の児童の実態に応じた指導	・西原小「学習の約束」をもとに、基本的な学習態度を身に付けることができるように指導してきた。また、習熟度別学習や少人数学習、学習形態の工夫、朝の学習の繰り返し学習(宮っ子ステップアップ、漢字・計算ドリル等)を行い、基礎・基本の定着を図ってきた。	・国語の漢字の読み書きや言葉の学習についての正答率は、市と比べて高かった。しかし、算数の基本的な計算問題ができていない児童が目立った。次年度はどの児童も確実に定着できるようなきめ細かな指導が必要であることが分かった。
・達成感、成就感、満足感が味わえる体験活動や課題解決的な学習の展開	・作業や体験を通して学ぶ楽しさを実感できるような学習活動や自ら考える場やよりよい解決方法を見出すための学び合いの場を設定した授業を行ってきた。さらに授業の終末時には、振り返り活動を行い、児童が学びを実感できる授業を目指してきた。	・学ぶ楽しさを実感できるような学習活動を充実させることは、学習への意欲の向上につながるものと考えられる。学習と生活のアンケートでは、学年、教科によって学習への意欲にばらつきがあった。次年度も学び合いの場を大切に授業の展開について学校全体で共通理解を図って取り組んでいきたい。
・思考力・判断力・表現力等を育てる指導の工夫・改善	・言語活動の充実、学び合いの場の設定、ノート指導、板書や発問の工夫、振り返り活動の充実を行い、質の高い授業を目指してきた。特に、自分の考えやまとめ、振り返りをノートにまとめる時間を十分に取るようにし、国の調査での課題であった「書く力」の育成にも力を入れてきた。	・どの教科も活用問題の正答率が、市よりも高かった。特に算数の記述問題正答率が高く、これまで本校が取り組んできた学習指導の成果であると考えられる。次年度も引き続き思考力・判断力・表現力等を育てる指導を充実させていきたい。

★国・県・市の結果を踏まえての次年度の方向性

- ・基礎・基本の問題の中で市の正答率よりも低い問題があったことを改善していけるよう、次年度も基礎・基本の確実な定着を目指して習熟度別学習・少人数指導やT・Tでの授業を行っていく。また、朝の学習や家庭学習については、発達段階に合わせた学習内容が計画的に行えるようにする。
- ・市の定着度調査の結果から、国語の「話す・聞く」に課題があった。次年度は、コミュニケーションの能力を高める学習指導(聴き合う集団の育成)にも力を入れていく
- ・学校全体で学習指導の充実に向けた取り組みの共通理解が図れるように校内研修を計画的に実施する。
- ・新しい学習指導要領の方向に合わせ、授業の展開を工夫・改善していく。